

事例報告(2018年12月)

「GAPの取組拡大に向けて」

報告者 (弘前市)株式会社 青研

代表取締役 竹谷勇勝 氏

(三沢市)株式会社 青北建設

代表取締役 附田久志 氏

(平川市)JA津軽みらい特A米プレミアム研究会

会 長 工藤憲男 氏

株式会社 青研(弘前市五代)

会社概要

事業内容 りんごの生産・販売、りんご加工品の製造・販売

- 業務内容
- ・ りんご生果の生産・販売
 - ・ りんごストレートジュースの製造・販売
 - ・ イラストりんごの販売
 - ・ 通信販売
 - ・ 品質保証の葉とらずりんご生産販売

従業員数 正社員 42名、パート 33名

関連団体 葉とらず完熟りんごの会・青研りんごの会



代表取締役 竹谷勇勝氏

GAPに取り組んだ経緯

- ・ 平成20年に、取引先の生協に求められ生協GAPに取り組む。
- ・ インドネシアへのりんご輸出にGAPが必要であったため、平成22年1月に、当時インドネシア政府に認められていたJGAPを取得
- ・ インドネシア政府の方針変更で、平成27年12月にグローバルGAPを取得。

GAP取組概要

面積 1.4ha(自社農場、2か所に分散(95a、45a))でりんごを作付け

従事者 栽培主任の他4人(計5人)

株式会社 青研(弘前市五代)

GAPに取り組む際に苦労した点

- ・ 生協GAPに始まり、JGAP、グローバルGAPと、徐々にハードルを上げたことで、無理なく取得できた。
 - ・ 作業現場の指揮や作業記録を作成する栽培主任、伝票の整理等は事務員の負担が大きく、大変である。
 - ・ グローバルGAPは、毎年更新で、審査費用も高い。
- 〔 インドネシアへ輸出のためにグローバルGAPを取得したが、認証の維持費と取得効果を考えると、継続の見直しも検討している。 〕



H22「葉とらずりんごの会」36名でJGAP取得

株式会社 青研

GAPに取り組んで良かった点

- ・ 食品安全、労働安全、健康管理などについて、従業員の意識が高くなった。

【GAPりんごの主な出荷先】

- ・ 国内の市場や量販店等
- ・ 台湾をはじめとする5地域（台湾、香港、タイ、インドネシア、シンガポール）に輸出

※ このうち、グローバルGAP認証が必要なのはインドネシアのみ。

- ・ H15. 12 台湾へりんご輸出開始
- ・ H22. 3 インドネシアへりんご輸出開始

〔 H29年産のインドネシアへの
輸出実績は、30.3 t 出荷 〕



GAP取得農場での収穫

来場の農業者の皆様へ一言

株式会社 青研

- 農業者は、安全・安心な農産物を生産するシステムとして、GAPに取り組んだ方が良い。
- ただし、GAPの取得には費用がかかるので、費用対効果の見極めが重要。

株式会社 青北建設(三沢市六川目)

会社概要

- 業務内容 公共工事、新築、リフォームを手掛ける建設業
並びに砂利採取業、運輸業、農業
- 従業員 57名 農業部門パート職員12名
- 他経営会社 株式会社附田生コン、株式会社大伸（建設
資材販売、不動産業）



代表取締役 附田久志氏

GAPに取り組んだ経緯

- 平成23年、県内量販店との商談会で、量販店の取締役に「あなたにとって当社との取引はメリットかもしれないが、当社にとってあなたとの取引はリスクでしかない。」と言われ、平成24年にJGAPを取得。
- 知人の勧めにより、平成28年にグローバルGAPを取得。

GAP取組概要

面積 14ha(自社農地2ha、借入12ha) + 養成中(自社農地)3ha

GAP申請は10ha(うち種苗2ha)で、**にんにく**を作付け。

残り4haは、大根・にんじん農家に貸して無肥料で作付けしてもらい、肥料分の低下に努めている。

従事者 取締役(GAP責任者) + 現場リーダー + パート職員: 常時12名(収穫時28名)

株式会社 青北建設(三沢市六川目)

GAPに取り組む際に苦労した点

- ・ 農業部門担当の取締役(GAP責任者)や現場を指揮するリーダーは、日々の作業記録作成等で大変である。
一番大変なのは伝票を整理する事務員であるが、身内なので文句は聞こえてこない。
- ・ グローバルGAPの取得により、JGAPでは無かったチェックリストの作成や毎年のリスク評価が加わった。現場責任者は大変であった。
- ・ 逆に、作業員は、手順書や指示に従うだけなので大変ではない。



GAP取得農場でのにんにくの植え付け

株式会社 青北建設

GAPに取り組んで良かった点

- ・ イオンと取引で取引単価が固定化され、結果として**収入が見通せるようになった**。
- ・ **従業員の意識が変わった**ことで農業が組織化され、思ったことを実現できる体制が整った。
- ・ 安全・安心を証明できることで、**客の信頼を勝ち取った**。
- ・ **自分達で作ったものに、誇りを持てるようになった**。
- ・ 各自が安全面等に気を付けるようになり、**見えないリスクが回避**できている。
- ・ 作業員ミーティングで意見が出て、**作業効率が良くなった**。
- ・ 製造履歴等の記録が、次年度の改善につながる。

【主な出荷先】

イオン 60%、農協 20%、その他 20%
(11月から1月に集中出荷)



イオン販売用の減農薬のパッケージ

来場の農業者の皆様へ一言

株式会社 青北建設

- GAPの取得が即収益にはつながらないが、事業として**農業を見つめ直す第一歩**となる。
- 農業を業として捉え、自らの責任を明確にすることで**責任感や危機感**が生まれ、そこに**成長や発展の種**が転がっている。
- GAPに少しでも興味があるのなら、是非、その扉を開いてほしい。

津軽みらい農協特A米プレミアム研究会

工藤会長の経営概要

事業内容 米の生産及び作業受託、大豆の生産及び作業受託
労働力 4人(本人、妻、長男、長男の妻、臨時雇用なし)
経営面積 水稻 21ha(うち青天の霹靂 8.5ha(うち特別栽培 **2ha**))

GAP申請面積 ↑



会長 工藤憲男氏

GAPに取り組んだ経緯

- ・ ブランド米競争の中で「**青天の霹靂**」のブランドを維持するためには、**特別栽培に取り組み、付加価値を付ける**ことが必要。
- ・ グローバルGAPに取り組み、**東京オリパラへの食材提供を目標**とした。

GAP取組概要

会員数 21名(うち**3名**がGAPに取り組み)
作付面積 特別栽培の青天の霹靂 23ha(うちGAP **6ha**)

津軽みらい農協特A米プレミアム研究会

GAPに取り組む際に苦労した点

【個人として】

- ・ 「食べるものを生産しているのだから、ほ場や施設は、綺麗でないと」と、日頃から清潔と整理・整頓には気をつけてきた。
- ・ 元々、複式簿記や作業日誌等は記帳していた。
- ・ また、いろいろな場面で気づいたことは都度改善してきた。

↓

苦労なくGAPに取り組めた。

【会長として】

- ・ 事務局である農協は、規程の作成や農家の取りまとめ・指導等で大変である。
- ・ 団体認証の場合、農家は農協の指導に従うだけなので、比較的容易であるが、新たに記帳を行う等の手間は増える。



GAP取得農場での田植え

津軽みらい農協特A米プレミアム研究会

GAPに取り組んで良かった点

- ・ 審査を受けて日が浅いため、取り組んで良かったとの実感は、まだない。
- ・ (審査等で)見られる・(周りの人から)見られていることを意識することで、これまで以上に安全・安心な取組へと高めることが出来る。

【主な出荷先】

全農をとおして、
東京の米販売店に出荷



G A P 取得農場での防除

来場の農業者の皆様へ一言

津軽みらい農協特A米プレミアム研究会

- これからの農業は、安全・安心を担保するためにもGAPの取組が重要となる。
- 農協等が事務局となってGAPを取得する「団体認証」の場合、日頃から、整理・整頓に心がけ、作業内容を記帳している人であれば、比較的容易にGAPに取り組むことができる。

まずは、**日々の作業の記帳**から始めてみては…。